



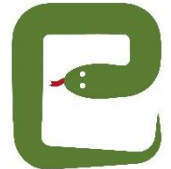
薫風

銚子市立明神小学校学校便り
VOL.21 令和7年1月6日

令和6年度 学校教育目標 「心豊かに自律できる子どもの育成」
『楽しく、面白く、やってみたいをやってみよう!』

新年あけましておめでとうございます

令和7年は十干では乙、十二支では巳にあたるため乙巳(きのとみ)の年となります。しなやかに伸びる植物のような柔軟な考え方や協調性を意味する「乙」と、「新しい自分に生まれ変わる」、「幸せな未来をつかむ」と捉えることができる「巳」、この2つが合わさる乙巳は、「これまでの努力や準備が実を結び勢いを増していく」、「幸運に導かれる」年だと言われています。



今年も明神小学校では、子供たちの「やってみたい」「やってみよう」という気持ちを大切に、「夢中になれる子供の育成」を目指して、教育活動に取り組んでまいりたいと思います。本年も、保護者、地域の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

3 学期始業式

約2週間の冬休みを終え、学校に子供たちの元気な笑顔と歓声が戻ってきました。6日(月)の始業式では、年末年始に各地で行われていたスポーツの大会を取り上げ、次のようなお話をしました。

この年末年始には、高校生によるバスケットボールやラグビー、サッカー、バレーボールの全国大会や大学生による駅伝大会(箱根駅伝)など、様々なスポーツの大会が行われていました。そのような大会で活躍している選手たちには、競技は違えども共通していることがあると感じました。それは、活躍している選手はみんな「悔しさ」と「感謝の心」を持ち合わせているということです。

大会中や大会後にインタビューを受けた選手は、

- ・「昨年は〇〇のような悔しさを味わったので、その悔しい気持ちを忘れずにこの1年間頑張ってきました。」
- ・「今年はケガをしてしまって、思うように練習をすることができず、チームにも心配をかけてしまったので、今日はその想いを全てぶつけようとプレーしました。」
- ・「これまで支えてくれた、仲間や先生、家族に感謝の気持ちを届けたいと思って走りました。」
- ・「苦しいときも、仲間や家族の支えがあったからこそ、ここまで来ることができました。」

といった趣旨のことを話していました。

昨年の2学期終業式に、「自分自身の『やってみたい!』、『やってみよう!』は、夢や目標を達成させるための原動力、エネルギーです。」と言いましたが、「悔しさ」と「感謝の心」は、夢や目標の達成に向けて努力を続けるための原動力になるものだと思います。

「悔しさ」とは、上手くできなかつたり、失敗したりしたときに抱くマイナス的なものではなく、本気で物事に取り組んだ人だけが味わう、成功への「スタート」のようなものだと思います。

ありがとうという「感謝の心」は、相手のために、相手を思いやるというだけでなく、自分の心を整え、前に向かってくれる大切なものです。

2025年のスタートとなるこの3学期、皆さんには、自分を支えてくれる友達や先生方、家族に「ありがとう」という感謝の気持ちを持ち、「悔しい」という想いが湧き上がるほど物事に本気で取り組んで、自分自身の可能性を広げていってほしいと思います。

「相手への感謝は自分の心を整えます。」「悔しいという感情は、本気な人が抱く成功へのスタートです。」このことを大切にしていってください。3学期の皆さんの活躍、そして成長を楽しみにしています。